

J-STAGE登載500誌達成！

特別号発行にあたって

平成11年より運用しております科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」ですが、おかげさまでこのほど公開ジャーナル数が500誌を突破いたしました。また、アクセス数も順調に伸び、PDFダウンロード数は月間100万件以上となっております。

J-STAGE登載誌500誌達成によせて

JST 理事長 北澤宏一



データベースの生命はきちんとカバーされていてそこに行くに必要な情報が入手できるということである。海外への発信という観点から、どうしてもカバーしなければならない日本の主たる学会の英文雑誌は約200種類程度であるとされていた。平成11年秋にスタートしたJ-STAGEは今年10年目を迎え、本年8月末にジャーナルの公開数が500誌を達成した。J-STAGEを企画し、担当・実施されてきた多くの方々、学協会のみなさまのご支援と努力に感謝の意を表したい。これにより我が国の学協会の発信する論文がようやく全世界の人々の目に届くことになった。一つのマイルストーンを超えた。

10年前には日本の学協会の電子化に対する意識も育っておらずJ-STAGEシステムも満足のいくレベルでなかったことから、スタート当初は事業の理解がなかなか得にくかったが、ここ数年、ようやく電子ジャーナルに関するひとびとの認識も熟成し、参加を希望する学協会も増大しており、J-STAGE事業は我が国の学協会の成果発信の国際化に一応の成果を挙げたと考える。

昨年度、学協会と学術会議各部代表など外部の有識者から成るアドバイザー委員会を立ち上げ、今後のJ-STAGE事業の方向性について議論してきた。国内学協会誌のさらなる電子化促進とともに、今後はJ-STAGE公開後の学協会誌の世界におけるプレゼンスの向上に向けた取り組み強化を図っていく方針が示されている。

しかしながら、科研費の削減や公益法人化法改正など、最近の学協会を取り巻く情勢は厳しく、個々の学協会にとってジャーナルの発刊事業も容易なものではなくなってきている。そのような観点からJ-STAGEの役割はますます重要となるものと認識している。

私はJ-STAGEが日本の学協会誌の電子ジャーナルプラットフォームとして、次のステップに向けてさらなる向上を目指し、国立国会図書館や国立情報学研究所等関連機関との連携を強化しつつ、学協会の意向を汲み上げた事業を発展していくことを期待し、その発展に尽くしていきたいと考える。

今後とも事業推進に携わるみなさま及び学協会のみなさまのご支援とご指導をお願いしたい。



皆様からのメッセージ

J-STAGEジャーナル公開数500誌達成に際し、アドバイザー委員会の皆様等から多数のメッセージを頂きました。紙面の都合上、一部ですが以下にご紹介させていただきます。ありがとうございました。

○ 数値目標の達成に、まずはお祝いを申し上げます。ただ、それに満足している状況ではないことも確かでしょう。わが国からの情報発信の国産プラットフォームとして、J-STAGEが果たさなくてはならない役割はもっと大きいはずです。一層の発展を期待しています。
 (アドバイザー委員会 中野委員長)

○ J-STAGE関係者と会って論文誌掲載の話聞いたのは2000年の7月のことでした。当時のことを思うと、隔世の感があります。まだまだ使いにくいとの意見もありますので、地道に努力されることを期待しております。今後ともよろしく願いいたします。
 (日本農芸化学会 小梅枝様)

○ J-STAGE500誌達成おめでとうございます。日本の論文誌を取り巻く環境は依然厳しいままですが、間違いなく数は力がありますので、この力が更に新しい力を生み出してより一層のレベルアップを果たし、学協会と共に益々発展することを期待いたします。
 (日本化学会 林様)

○ 500誌達成おめでとうございます。J-STAGE立ち上げの頃を思うと感慨深いものがあります。オンラインジャーナルの世界は日進月歩で進化しています。いろいろと大変ですが、これまで以上のご活躍を祈願してお祝いの言葉に代えさせていただきます。
 (IPAP 太宰様)

○ 500誌達成おめでとうございます。でも、まだまだこれからでしょうか。日本の研究成果を世界に発信するという重要な役割を担う最大の機関として、これからもより一層の努力をされることを期待しております。
 (日本内科学会 橋立様)

○ J-STAGEが始まったときは学会も印刷会社もあまり乗り気でなく、勧誘に大変苦勞したことを思い出しました。500誌突破とは夢のようです。
 (時実様)

○ 多くの方々が築いてこられた多大な業績を讃えたく存じます。J-STAGE掲載500誌もさることながら、使いやすい価値のある魅力のある電子化が不可欠であると思います。J-STAGEが何ができるのかではなく、私たちがJ-STAGEに対して何ができるかを問うときがきているような気がします。
 (日本機械学会 寿山様)

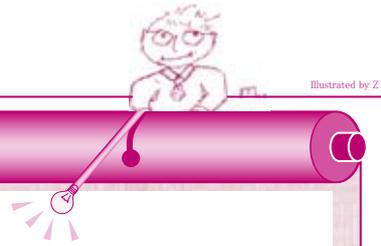
○ 本誌が加入した頃に比べ、J-STAGEの認知度が高まったこともあり、本誌のアクセス数は伸びてきており、今や不可欠なツールになりました。今後も日本の学術成果を世界に発信する場として発展されることを期待しています。
 (日本学士院 竹内様)

○ 掲載500誌のマイルストーン突破おめでとうございます。国内トップのポータルサイトとしてこれからも国際情報発信に注力して下さい。海外の電子ジャーナル仕様のキャッチアップから日本発のグローバルスタンダードの海外普及へと発展されることを期待します。
 (日本金属学会 千葉様)

○ 500誌達成おめでとうございます。この勢いは、必ずや情報発信の強力な基盤の構築となるでしょう。今後も科学技術の貴重な財産の発信基地として未来に繋がるご活躍をお祈り申し上げます。
 (日本薬学会様)
 (順不同)



J-STAGE 500誌へのあゆみ



Illustrated by Z



登録誌
35誌

科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)運用開始
大会演題登録システム、認証機能、電子付録機能を追加
PubMedへのリンクが実現

J-STAGEニュース創刊号発行
予稿集公開システム運用開始

登録誌
46誌



登録誌
200誌

Online Information 2001でJ-STAGE紹介(ロンドン)
STNから(ChemPort経由)のリンクが実現
J-STAGEトップ画面リニューアル

JSTがPILAのメンバーへ
JSTリンクセンター運用開始、CrossRefサービス参加

登録誌
100誌



次世代システムJ-STAGE 2 運用開始、投稿審査システム提供開始

全文HTML公開、早期公開機能を追加

Pay Per View (論文の一部売り)サービス開始
被引用リンク提供開始

登録誌
300誌

Google検索結果からのリンクが実現

登録誌
400誌

図書館などの閲覧機関への統計情報提供開始(COUNTER準拠)
論文撤回・訂正についての推奨基準公開

J-STAGE事業アドバイザー委員会設立

被引用アラート機能を追加、NASA ADS との相互リンクが実現

ICSTI2008でJ-STAGE紹介(ソウル)

NII(国立情報学研究所)のCiNiiとの連携開始

登録誌
500誌

1999



2000

2001

2002



2003

2004



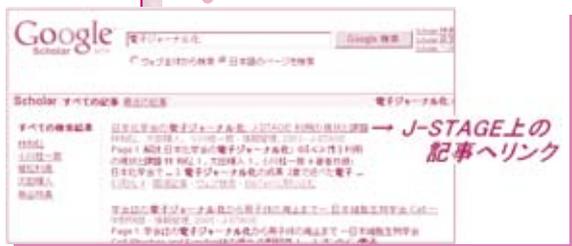
2005

2006



2007

2008



J-STAGE 掲載状況・アクセス状況

2008年10月31日現在、J-STAGEに公開されている資料はジャーナル511誌、予稿集・要旨集119誌、報告書10誌です。アクセス数等は以下の通りとなっています。なお、J-STAGEでは、雑誌・論文ごとのPDFダウンロード数など、詳細なアクセス情報を取得いただけるアクセス統計もご提供しています。また購読機関向けCOUNTER準拠レポートの提供も行っています。

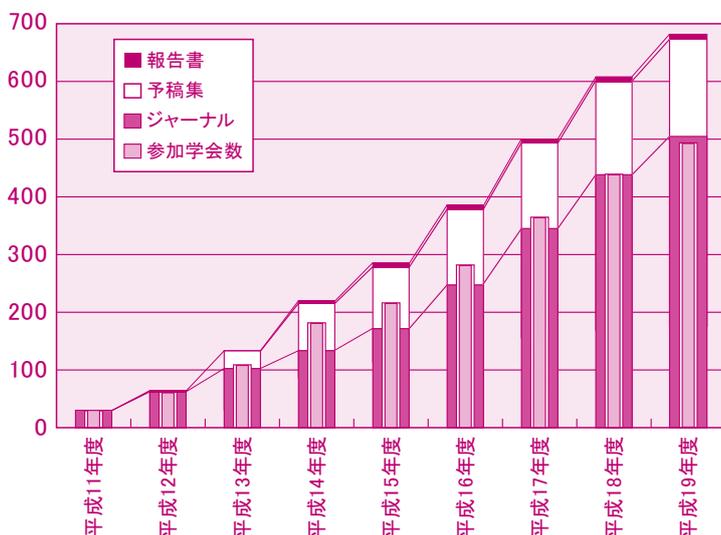
◆2008年10月度アクセス状況

分類	件数
全アクセス数	8,744,266
全PDFアクセス数	1,322,290

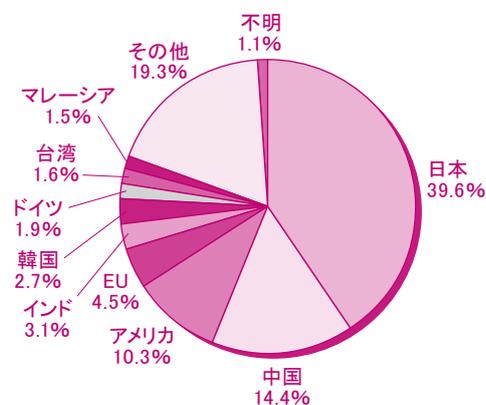
◆2008年10月度国内外リンクサイトからのアクセス数

リンクサイト	件数	リンクサイト	件数
CrossRef	55,083	Google	1,199,217
PubMed	252,514	ChemPort	19,185
JDreamII	1,768	NASA ADS	73

◆年度別掲載状況



◆国別アクセス状況



※2007年度PDFアクセス状況

掲載500誌を突破し、J-STAGEは皆様に育てられながら、わが国の電子ジャーナル発信流通促進のためのプラットフォームとして日々成長し続けています。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともJ-STAGEをどうぞよろしくお願いたします。

編集後記

♪ 宿願のJ-STAGE 掲載誌 500 誌の達成で、特集号を組ませていただきました。先人の皆様のご苦勞、J-STAGE のさらなる発展へのご要望に、身の引き締まる想いがします。(K)
 ♪ 500 誌という節目にあたりお届けした記念特別号はいかがでしたか。まだまだ通過点、今後も努力が欠かせません。次の「ステージ」へ、皆様とご一緒に、着実に歩みを進めてゆければ…と決意を新たにしています。(a)

J-STAGEニュース 特別号 2008年11月30日

編集 独立行政法人 科学技術振興機構
 研究基盤情報部 電子ジャーナル課
 発行人 研究基盤情報部長 大倉 克美
 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ
 電話 03-5214-8837 (ダイヤルイン)
 E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp



<http://www.jstage.jst.go.jp/>

J-STAGE および J-STAGE ニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。
 JST 研究基盤情報部 電子ジャーナル課 (contact@jstage.jst.go.jp)